

微小粒子状物質測定法専門委員会報告（案）（平成 21 年 7 月）からの変更点

番号	変更箇所	変更前	変更後
3. 標準測定法の等価法として用いる自動測定機が満たすべき基本的条件			
11	P10 (2) 分粒装置の特性	標準測定法と同様に、分粒装置の特性は 50%カットオフ径が 2.5 μm であることとする。また、分粒装置の性能としては、JIS Z 8851 で規定されているように、50%分粒径が 2.5±0.2 μm、80%分粒径に対する 20%分粒径の比で規定する傾きが 1.5 以下を満たすこととする。	<p><u>分粒装置を有する機種は、標準測定法と同様に、分粒装置の特性は 50%カットオフ径が 2.5 μm であることとする。また、分粒装置の性能としては、JIS Z 8851 で規定されているように、50%分粒径が 2.5±0.2 μm、80%分粒径に対する 20%分粒径の比で規定する傾きが 1.5 以下を満たすこととする。</u></p> <p><u>また、分粒装置を有しないものについては、上述の分粒装置の性能と同等の性能を有することが必要となる。</u></p>
13	P11-12 (8) 相対湿度の変化への対応 参考 p20 Ⅷ 川崎市における成分分析（四季調査）の結果	また、二次有機エアロゾルの多くは吸湿性を持ち、成分によっては無機塩と比べて低い相対湿度でも水分を取り込むと考えられる。	<p>また、<u>カルボン酸等に代表される</u>二次有機エアロゾルの多くは吸湿性を持ち、成分によっては無機塩と比べて低い相対湿度でも水分を取り込むと考えられる。</p> <p><u>参考資料に、川崎市における成分分析（四季調査）の結果を追加。</u></p>

番号	変更箇所	変更前	変更後
4. 標準測定法の等価法として用いる自動測定機の等価性評価			
17	P17 FRM による 評価方法	標準測定法との並行比較試験の結果から求められる一次回帰式の切片、傾き及び相関係数について評価基準が示されている。	標準測定法との並行比較試験の結果から求められる一次回帰式 (x : 標準測定法、 y : 自動測定機) の切片、傾き及び相関係数について評価基準が示されている。
18	P9 2-3 標準測定法における誤差	FRM においては、モニタリングの精度について、全体として、標準偏差と平均値の比で表わされる 変動率 で 10 % 以下とされており、... ... 1 回目は 変動率 3.1 % (平均濃度 7.2 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、標準偏差 0.224 $\mu\text{g}/\text{m}^3$)、2 回目は 変動率 3.2 % (平均濃度 12.4 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、標準偏差 0.400 $\mu\text{g}/\text{m}^3$) であったことから、...	FRM においては、モニタリングの精度について、全体として、標準偏差と平均値の比で表わされる 変動係数 で 10 % 以下とされており、... ... 1 回目は 変動係数 3.1 % (平均濃度 7.2 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、標準偏差 0.224 $\mu\text{g}/\text{m}^3$)、2 回目は 変動係数 3.2 % (平均濃度 12.4 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、標準偏差 0.400 $\mu\text{g}/\text{m}^3$) であったことから、...